

(一社) 日本救急救命士会 令和7年度 会員総会

日 時：令和7年6月7日(土)

会 場：Web ページによる報告

1 報告事項

1) 事務局報告

➤ 会員・賛助会員の状況（令和7年5月31日時点）

正会員数 384名

うち消防機関所属 146名 [38.0%]

うち医療機関所属 102名 [26.5%]

うち教育機関 69名 [18.0%]

その他所属 56人 [14.5%]

➤ 評議員数 124名 名誉会員 1名

➤ 賛助会員 6団体

・株式会社へるす出版

・JEMS リンクル株式会社

・株式会社高研

➤ 年度協賛 1団体

・株式会社 ONODERA GROUP

・(一社) 全国救急救命士教育施設協議会

・日本ストライカー株式会社

・レールダルメディカルジャパン株式会社

2) 令和6年度事業報告

【資料1】参照

3) 他団体理事派遣について（令和7年5月29日 令和7年度臨時理事会にて決議）

・(一社) 日本病院会「救急・災害医療対策委員会」より委員推薦依頼

・植田理事の派遣を決定（令和7年5月29日 令和7年度臨時理事会）

4) 他団体賛助会員入会について（令和7年4月30日 令和7年度臨時理事会にて決議）

・(一社) 全国救急救命士教育施設協議会へ賛助会員として入会

・賛助会員 10口 10万円

2 評議員会（社員総会）報告

第1号議案 令和6年度 決算報告・監査報告・収支報告

- ・令和6年度 決算報告・監査報告・収支報告について承認された。【資料2・3】

第2号議案 令和7年度 予算案

- ・令和7年度予算案について承認された。【資料4】

第3号議案 令和7年度 事業計画案

- ・令和7年度事業計画案について承認された。【資料5】

3 その他周知事項

1) 会員集会開催について下記の通り周知された。

- ・9月27日(土) AP名古屋 愛知県名古屋市中村区名駅4-10-25名駅IMAIビル
- ・仮) 厚生労働省/総務省消防庁から情報提供 他

以上

2025年6月7日 議長

一般社団法人 日本救急救命士会 会長 喜熨斗 智也

令和 6 年度 事業報告

自 令和 6 年 4 月 23 日

至 令和 7 年 3 月 31 日



1. 概要

日本救急救命士会は、定款第3条において、「救急救命士が教育と研鑽に根ざした専門性に基づき、救急医療の質の向上を図るとともに、国民の幸福を追求し続けられる環境づくりを推進し、社会のあらゆるニーズに応える救急救護領域の開発と展開を図ることにより、国民の安全と安心に寄与することを目的とする。」と定めている。定款第4条において、目的を達成するために以下の事業を実施することとしている。

- (1) 救急医療の質の向上に関する事業
- (2) 救急救命士の教育と研修に関する事業
- (3) 職業倫理の向上に関する事業
- (4) 救急救命士制度への提言に関する研究事業
- (5) 救急救命士相互の職域を支援する事業
- (6) 救急救命士の就職支援に関する事業
- (7) 公共福祉の向上に関する事業
- (8) 他の医療従事者との連携事業
- (9) 学術研究の振興に関する事業
- (10) 救急救命士の国際交流に関する事業
- (11) その他当法人の目的を達成するために必要な事業

定款に定めた目的および事業を達成するため、各種会議、委員会活動、発信活動等を実施した。

2. 組織の状況

① 会員数・協賛数（令和7年3月31日）

- 正会員 308名
- 名誉会員 1名
- 賛助会員 6団体
- 年度協賛 1団体

② 評議員

- 総数 124名
- 任期 令和6年8月13日から令和9年度決算に関する定時社員総会まで

③ 役員

- 理事 17名
- 任期 令和6年9月8日から令和7年度決算に関する定時社員総会まで
- 監事 3名
- 任期 令和6年9月8日から令和9年度決算に関する定時社員総会まで

3. 会議実績

① 評議員会（社員総会）（定款第 20・21 条関連）

- 令和 6 年度 臨時評議員会 令和 6 年 9 月 8 日 Web 開催
議事事項（全て承認）
 - ・役員選任について
 - ・評議員の追加選任について
- 令和 6 年度 定時評議員会 令和 6 年 10 月 5 日 東京（Web ハイブリッド）開催
議事事項（全て承認）
 - ・非選挙監事選任
 - ・令和 6 年度事業計画
 - ・令和 6 年度予算
- 令和 6 年度 臨時評議員会 令和 7 年 2 月 16 日 Web 開催
議事事項（全て承認）
 - ・新規入会に関する特例措置について
 - ・名誉会員の承認について

② 理事会（定款第 34・35 条関連）

- 令和 6 年度 通常理事会 令和 6 年 10 月 5 日 東京（Web ハイブリッド）開催
議事事項（全て承認）
 - ・賛助会員入会の承認
 - ・非選挙監事選任
 - ・委員会の設置
 - ・担当理事の配置
 - ・委員長の選任
 - ・令和 6 年度事業計画
 - ・令和 6 年度予算
- 令和 6 年度 臨時理事会 令和 6 年 11 月 13 日 Web 開催
議事事項（全て承認）
 - ・賛助会員入会の承認
- 令和 6 年度 臨時理事会 令和 7 年 1 月 29 日 Web 開催
議事事項（全て承認）
 - ・救急救命士養成校（所）修了生の表彰に関する規程
- 令和 6 年度 臨時理事会 令和 7 年 2 月 7 日 Web 開催
議事事項（全て承認）
 - ・弔慰規定
 - ・謝金規定
- 令和 6 年度 臨時理事会 令和 7 年 3 月 12 日 Web 開催
議事事項（全て承認）
 - ・賛助会員入会の承認
 - ・年度協賛申込みの承認

4. 活動実績（当会主体業績）

- 令和6年4月23日 一般社団法人 日本救急救命士会 設立
- 令和6年5月30日 救急振興財団（救急救命東京研修所）へ報告・説明
- 令和6年6月5日 全国メディカルコントロール協議会連絡会 会長へ報告・説明
- 令和6年7月11日 日本救急救命士会 ウェルカムセミナー開催(オンライン)
- 令和6年7月25日 緊急座談会「救急救命士の処置拡大：アナフィラキシーに対するアドレナリンの筋肉内注射」開催(オンライン)
- 令和6年8月13日 第一期評議員選任
- 令和6年9月8日 第一期役員(理事・監事)就任 初代会長就任
- 令和6年10月5日 日本救急救命士会 設立記念フォーラム開催
- 令和6年11月16日 日本救急救命士会主催 オンラインセミナー開催
「JRC 蘇生ガイドライン令和7<ファーストエイド>最新情報アップデート」
- 令和6年12月15日 日本救急救命士会主催 オンラインセミナー開催
「GRA Japan Chapter が推奨するハイパフォーマンス CPR の動向」
- 令和6年12月2日 東京都薬剤師会 会長へ挨拶
- 令和7年2月4日 日本救急救命士会主催 オンラインセミナー開催
「日本臨床救急医学会 PACC コース講義の一部を紹介
～病院前における循環器救急疾患への対応～」
- 令和7年2月24日 日本救急救命士会主催 第48回救急救命士国家試験応援セミナー開催
- 令和7年3月6日 日本薬剤師会へ挨拶
- 令和7年3月18日 日本救急救命士会主催 オンラインセミナー開催
「12誘導心電図伝送がもたらす救命と予後改善
～病院前における循環器救急疾患への対応～」
救急救命士の倫理綱領 公開（令和7年4月23日）

5. 活動実績（他団体からの派遣等の依頼）

- 令和6年8月2日 第28回日本臨床救急医学会総会・学術集会 プログラム委員会 委員 喜熨斗 智也
- 令和6年11月30日 厚生労働省 令和6年度「人生会議」（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）普及啓発イベント『自分らしく生き抜くヒント～「人生会議」はじめてみませんか？～』出席 北村 浩一
- 令和7年3月4日 『政府広報オンライン：心肺蘇生法と AED で命を救おう！緊急時の対処法』撮影協力 長谷川 汐里
廣田 恵典
- 令和7年3月12日 国際医療福祉専門学校 卒業式 来賓 喜熨斗 智也
植田 広樹
- 令和7年3月14日 内閣府規制改革推進会議 第2回 健康・医療・介護ワーキング・グループに出席 喜熨斗 智也
沼田 浩人

6. 活動実績（講演等の依頼）

令和6年6月1日	第2回静岡県救急救命士部会	植田 広樹
令和6年8月22日	令和6年度 一般社団法人全国救急救命士教育施設協議会(JESA)総会	喜熨斗 智也
令和6年8月31日	第4回 日本病院救急救命士研究会	喜熨斗 智也
令和6年9月3日	第1回京都府病院救急救命士意見交換会	福岡 範恭
令和6年12月14日	第68回志太榛原救急医療研究会	喜熨斗 智也
令和7年1月16日	東京都薬剤師会 賀詞交歓会	北原 学
令和7年2月6日	救急救命士を支援する議員連盟（オブザーバー参加）	喜熨斗 智也
		福岡 範恭
令和7年2月7日	第2回京都府病院救急救命士意見交換会	福岡 範恭
令和7年3月19日	鹿児島県病院救命士 意見交換会	後藤 奏

7. 活動実績（メディア出演）

令和7年3月20日	Abema Prime 「AED使用率どう上げる？」	喜熨斗 智也 長谷川 汐里
-----------	----------------------------	------------------

8. 委員会活動実績

定款第4条で定めた事業を達成するため、以下の8つの委員会活動を実施した。

<総務委員会>

概要	事務局と連携し、本会における総務全般、財務経理を担当し、各委員会の事業を支援する。さらに会員情報の管理、福利厚生、表彰及び他団体との情報交換等の事務業務を担当する。また、救急救命士の職域における課題やニーズを分析し、他の委員会と連携しながら将来に向けての計画を検討し、事業立案を行う。
委員	○植田 広樹、○○中川 貴仁、中川 貴仁、水本 花子、中島 秀明、大滝 達也

○担当理事 ◎委員長

本年度 事業 報告	委員会 会議開催 4回(web) 1. 規程の整備(各委員会、慶弔、学業優秀学生表彰) 2. 養成校向け新規入会特別措置制度創設 3. 救命士養成施設に卒業・修了式典へ祝辞の送付 4. 名誉会員制度に基づく認定
-----------------	---

<学術・研究倫理委員会>

概要	日本救急救命士会は、その事業の一つに、救急救護領域の学術に関する事業を掲げている。学術に対する綱領、救急救命士が行う研究に関する倫理指針、研究活動上の行動規範を定め、救急救命士が教育・学術・研究の研鑽に根ざした専門性に基づき、救急救護領域の質の向上を図ることを目的に、専門的知識や技術の進歩と開発に努め、救急救護領域の発展に寄与していく。
委員	○一ノ瀬 佳彦、○萱沼 実、◎中川 洸志、勾坂 量、皆藤 竜弥、黒崎 久訓、田中 翔大 都 城治、守岡 大吾、松山 千恵美、北野 信之介

○担当理事 ◎委員長

本 年 度 事 業 報 告	委員会 会議開催 3回 (Web) 1. 事業計画の策定 2. 研究倫理綱領、研究活動規範、研究活動指針のドラフトを作成 3. 学術解説記事の投稿に関する議論
---------------------------------	--

<教育・研修・多職種連携委員会>

概要	救急救命士の専門性向上を目的とし、教育プログラムの作成と実施、臨床実習の質向上に向けた指導者のためのガイドラインの作成、他の委員会と連携したより効果的な教育企画の実施等を行う。また、多職種連携の推進として、救急救命士が活動する様々な現場における役割の明確化や各現場に適した多職種連携モデルの構築等に取り組んでいく。
委員	○三上 剛人、◎◎大石 奨、長橋 和希、齋藤 汐海、三本 健志、大野 健二 藤島 璃々子、向井 亮裕

○担当理事 ◎委員長

本 年 度 事 業 報 告	委員会 会議開催 3回 (Web) 1. 活動方針の策定について ①短期計画(半年後、令和 7.3) 会員獲得のための事業周知 ・教育コンテンツの公開 ・各委員会セミナー 研究倫理 職業倫理 救急救命処置 ②中期計画(3年後、2028.3) 会員の満足度向上のための活動 ・教育設計セミナー (ベーシック、アドバンス) ・病院救命士の臨床指導者認定 ・救急外来多職種連携モデルの提唱 ・多職種 (医療職問わず) の教育研修事例検討 ③長期計画(5年後、2030.3)
---------------------------------	---

	<p>救急救命士の誰もが均てん化された教育を受けることができ、各所属施設内において医療者としての地位が確立される状態となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域支部での独立型教育設計セミナー（ベーシック、アドバンス） ・各地域支部での他職種（医療職問わず）の教育研修事例検討 <p>2. オンラインセミナー、講習会について</p> <p>①オンラインセミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6/11/16 JRC 蘇生ガイドライン令和 7<ファーストエイド>最新情報アップデート 参加人数 79 名 ・令和 6/12/15 GRA Japan Chapter が推奨するハイパフォーマンス CPR の動向 参加人数 79 名 ・令和 7/2/4 日本臨床救急医学会 PACC コース～病院前における循環器救急疾患への対応～ 参加人数 125 名 ・令和 7/2/24 第 48 回救急救命士国家試験受験者応援&ウェルカムセミナー 参加人数 218 名 ・令和 7/3/18 12 誘導心電図伝送がもたらす救命と予後改善～病院前における循環器救急疾患への対応～ 参加人数 68 名 <p>②講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 7/2/15 日本臨床救急医学会 PACC コース 参加人数 57 名
--	--

<広報・キャリア支援委員会>

概要	SNS やマスメディアを活用して、本会の使命・役割や活動実績の広報をすることで認知度の向上を図るとともに、救急救命士に対する社会的理解を浸透させ専門性の向上を図る。また、救急救命士の就職・転職や職場復帰に関する課題と解決策について検討し、会員の希望に沿ったキャリア形成の推進を図るための機会や充実したサポート体制の構築を実現する。
委員	○津波古 憲、○○長谷川 汐里、鳴海 圭佑、木下 拓也、島 伶弥、宮部 泰直 加藤 明仁、柳 聖美

○担当理事 ◎委員長

本 年 度 事 業 報 告	<p>委員会 会議開催 1 回 (Web)</p> <p>教育・研修・多職種連携委員会との合同会議 3 回 (Web)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Instagram および Facebook の運営 2. PR TIMES プレスリリース配信 計 13 回 (非営利団体サポートプロジェクト参加) 3. ホームページに掲載するお知らせの作成 (オンラインセミナー開催の案内等) 4. 会員向け NEWS メール配信 (JELSTA の活動報告やセミナー、関連学会等のお知らせ等) 5. 雑誌 Emer-Log (エマログ) への記事掲載 (内容：設立記念フォーラム)
---------------------------------	---

	6. 救急救命士に関する通達文書のまとめについて委員会内で検討を開始 7. 学生向け救急救命士国家試験応援セミナー開催 8. 厚生労働省コンテンツ心肺蘇生動画制作協力依頼対応（窓口担当） 9. 広報用リーフレットやチラシ、スライド資料等の作成 10. 救急救命士養成校宛のチラシ作成（特例措置の案内） 11. 各種医療系学会等での広報活動（学会展示の申込み等） 12. 広報委員用のメールアドレス発行（PR TIMES プレスリリース等に掲載） 13. 『政府広報オンライン：心肺蘇生法と AED で命を救おう！緊急時の対処法』撮影協力（窓口担当） 14. セミナーオンデマンド配信に関する動画編集 15. 厚生労働省「Job Tag」救急救命士の紹介ページ更新依頼対応（提出済）
--	---

<職業・専門職倫理委員会>

概要	救急救命士の専門性を向上させ社会に対する信頼性を確立するため、救急救命士が活躍するあらゆる現場において遵守すべき専門職の倫理基準を策定し、救急救命士に与えられた社会的責任を果たすための行動指針を明示することを目的とする。併せて、救急救命士の専門職倫理に基づく適正な現場活動を確保するため、専門職としての実践ガイドラインを策定する。
委員	〇〇澤田 仁、眞野 一樹、長谷川 瑛一、郷田 爽真、久保田 竜也

〇担当理事 ◎委員長

本 年 度 事 業 報 告	委員会 会議開催 4 回 (Web) 1. 救急救命士の倫理綱領策定 ①救急救命士の倫理綱領（委員会案）を理事会に提示（1/5） 看護師や N A E M T（NATIONAL ASSOCIATION OF EMERGENCY MEDICAL TECHNICIANS）等の倫理綱領を基に検討を重ね、委員会案を策定して理事会に提示した。 ②修正案の提示および理事会承認（2/23） 理事会意見を基に委員会案を再検討し、修正案を理事会に提示して承認を得た。 ③パブリックコメントの募集（3/1～3/7） 救急救命士の倫理綱領（案）に対するパブリックコメントを募集した。 ④救急救命士の倫理綱領理事会承認（4/12） パブリックコメントを委員会で検討し、最終案を理事会に提示して承認を得た。 ⑤救急救命士の倫理綱領策定・公表（4/23） 救急救命士の倫理綱領を策定し、日本救急救命士会ホームページに公表した。
---------------------------------	--

<救急救命処置委員会>

概要	救急救命処置の技術の向上および質の高い救急活動が安全、確実かつ円滑に行われるよう、救急救命処置に関する研究やデータ収集を通じて、救急救護領域の発展に寄与することを目的として活動を行う。また、救急救命士を取り巻く現状の課題を抽出するとともに、新たな救急救命処置、および対象等の拡大・変更の議論に対して、関係省庁・機関と協力関係を築き、提言を行い、国民の生命を守るために救急救命士の職能向上に努めるための活動を行う。
委員	○沼田 浩人、○吉井 友和、◎林 智貴、安達 颯太、野口 佐弥香、高田 康平 高橋 和也、鈴木 健介、川崎 知美

○担当理事 ◎委員長

本 年 度 事 業 報 告	委員会 会議開催 5回 (Web) 1. 救急救命処置拡大に向けた状況把握のための検討 2. 各領域の現状や要望把握の検討 (消防・医療機関・公的機関・民間等) 3. 各領域の相互理解のための座談会開催計画立案 4. 3における座談会アンケートで得られる救急救命士の処置拡大に関する意識と課題についての質的量的調査の検討 5. 内閣府規制改革推進会議ヒアリングにおける情報提供
---------------------------------	---

<災害・公共福祉委員会>

概要	地震、台風等の災害により生じた傷病者を救護する救急救命士の役割は重要であり、その期待は大きい。本委員会は、近年の激甚化する大規模自然災害等に対して、様々なフィールドで活動する救急救命士の役割、業務内容、災害支援等について検討し、関係する各種団体と協力し、活動を行う。また、公共福祉を高めるため、各種行事における救急救護の普及啓発等、公益目的事業の推進についても併せて検討を行う。
委員	○宮崎 伊佐夫、◎小田 浩文、本田 茂人、丹羽 一晃、尾中 秀行、廣田 恵典、高橋 貴美 小松 義孝、堀越 涼平、小森 一稀、竹内 一之、小森 健史、加藤 渚

○担当理事 ◎委員長

本 年 度 事 業 報 告	委員会 会議開催 5回 (Web) 1. 本委員会の検討内容について ①災害・公共福祉に関して救急救命士が抱える課題等をそれぞれの立場から意見交換 ②課題と解決策等を検討するにあたり今後の方針を検討 ③検討事項が多岐にわたるため今後は小委員会に分けて検討することで意見一致 ④委員会の下部組織として災害小委員会、公共福祉小委員会を設置、令和7年度から各小委員会で検討開始予定 2. 厚生労働省から政府広報におけるビデオコンテンツ撮影協力 ①政府広報オンラインにおける心肺蘇生の動画コンテンツ特集ページ協力依頼
---------------------------------	---

	<p>②喜熨斗会長、北原副会長、広報・キャリア支援委員会の協力のもと、本委員会委員が立ち会い、国士舘大学学生が出演して動画撮影</p> <p>③令和7年3月4日、政府広報オンラインページにて『心肺蘇生とAEDで命を救おう！緊急時の対処法』公開開始</p>
--	---

<国際委員会>

概要	<p>本会の関連する委員会と協力し、世界中の救急医療に関する知識や技術の共有、国際的なガイドライン策定や研究への参画、そして海外の救急救命士職域団体との連携を図る。また、国際会議への参画や海外等研修プログラムを通じて、日本の救急救命士の国際的な地位向上とネットワーク構築を目指し、本邦の救急救命士の資質向上に寄与する。</p>
委員	<p>〇〇菊地 誠二、原 貴大、三芳 智伸、木村 龍、森下 優似、若松 淳</p>

〇担当理事 ◎委員長

本 年 度 事 業 報 告	<p>委員会 会議開催 2回 (Web)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. タイで実施された EMS Asia において、NAEMT(全米救急救命士協会)および世界各国(台湾、シンガポール、カナダ、香港)の関連団体との今後の連携について調整、意見交換を行った。 2. SNS を活用した会員の国際活動についての情報発信について、広報キャリア支援委員会と連携し、実施要領について具体化を図った。 3. カンボジアの救急医療体制強化事業への参画について調整を進めた。現時点で、令和7年に委員を派遣予定。
---------------------------------	---

以上

決算報告書

(第 1 期)

自 令和 6 年 4 月 23 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

一般社団法人 日本救急救命士会

東京都中野区中野 2 丁目 2 番 3 号
株式会社へるす出版内

165 一般社団法人 日本救急救命士会
(様式1-1)

貸 借 対 照 表

令和7年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	932,227	0	932,227
未収金	49,751	0	49,751
流動資産合計	981,978	0	981,978
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
固定資産合計	0	0	0
資産合計	981,978	0	981,978
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	38,132	0	38,132
預り金	66,836	0	66,836
流動負債合計	104,968	0	104,968
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	104,968	0	104,968
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(2) その他一般正味財産	877,010	0	877,010
一般正味財産	877,010	0	877,010
正味財産合計	877,010	0	877,010
負債及び正味財産合計	981,978	0	981,978

正味財産増減計算書

令和6年4月23日から令和7年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0
受取入会金	0	0	0
受取会費	3,488,500	0	3,488,500
正会員受取会費	2,590,000	0	2,590,000
賛助会員受取会費	200,000	0	200,000
設立記念フォーラム協賛金収入	396,000	0	396,000
設立記念フォーラム懇親会収入	302,500	0	302,500
事業収益	0	0	0
受取補助金等	0	0	0
受取負担金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
為替差益	0	0	0
雑収益	382	0	382
受取利息	382	0	382
経常収益計	3,488,882	0	3,488,882
(2) 経常費用			
事業費	926,210	0	926,210
旅費交通費	11,500	0	11,500
通信運搬費	18,090	0	18,090
印刷製本費	14,650	0	14,650
諸謝金	94,662	0	94,662
会場費	613,945	0	613,945
決済手数料	155,543	0	155,543
支払手数料	17,820	0	17,820
管理費	1,685,662	0	1,685,662
旅費交通費	63,425	0	63,425
通信運搬費	208,492	0	208,492
消耗品費	111,360	0	111,360
広報費	296,310	0	296,310
租税公課	173,930	0	173,930
支払報酬	638,000	0	638,000
支払手数料	14,300	0	14,300
雑費	179,845	0	179,845
経常費用計	2,611,872	0	2,611,872
評価損益調整前経常増減額	877,010	0	877,010
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	877,010	0	877,010
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産売却損	0	0	0
固定資産減損損失	0	0	0
災害損失	0	0	0

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	877,010	0	877,010
当期一般正味財産増減額	877,010	0	877,010
一般正味財産増減額	877,010	0	877,010
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	877,010	0	877,010
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	0	0	0
受取負担金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高			
正味財産期末残高	877,010	0	877,010

165 一般社団法人 日本救急救命士会

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

当法人は、「公益法人会計基準」（平成20年4月11日、改正平成21年10月16日 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

- (1) 消費税等の会計処理方法
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。



監査報告書
一般社団法人 日本救急救命士会
令和6年度会計

一般社団法人 日本救急救命士会
代表理事 喜熨斗 智也 殿

私ども監事は、一般社団法人日本救急救命士会の令和7年3月31日に終了する第1期事業年度（令和6年4月23日～令和7年3月31日）における貸借対照表、正味財産増減計算書等計算書類について監査を行った結果、証憑類と帳簿が一致し、かつ適正な会計処理が行われていたことをご報告いたします。また、理事の職務執行に関し、不正の行為または法令、定款に違反する重大な事実は認められなかったことを、ここにご報告いたします。

以上

令和7年 5 月 29 日

一般社団法人 日本救急救命士会

監事 (御署名) 脇田 径典  

監事 (御署名) 岡本 征仁  

監事 (御署名) 中島 亮  

(一社) 日本救急救命士会 令和6年度収支報告書
(令和6年4月23日～令和7年3月31日)

(単位: 円)

科目		2024年度予算	2024年度決算	備考
収入の部	繰越金	0	0	
	入会金	1,500,000	1,545,000	5,000円×309名
	会費(正会員)	0	0	
	会費(評議員)	1,260,000	1,260,000	10,000円×126名
	会費(賛助会員)	500,000	800,000	決:6団体(1口×5・3口×1)
	会費 R7計上分		-815,000	R6年度会費 年度繰越
	年度協賛	500,000	2,500,000	決:1団体(25口×1)
	年度協賛 R7計上分		-2,500,000	R6年度協賛 年度繰越
	その他協賛金	130,000	396,000	決:設立記念フォーラム協賛金7団体
	意見交換会会費	330,000	302,500	決:設立記念フォーラム意見交換会会費
	事業収益	300,000	146,100	決:オンラインセミナー-有料参加 4回分
	事業収益 R7計上分		-146,100	R6年度事業収益 年度繰越
	利息	0	382	きらぼし銀行
	合計	4,520,000	3,488,882	
支出の部	事業費	1,430,000	926,210	
	旅費交通費	50,000	11,500	予:旧講演会を按分
	通信運搬費	50,000	18,090	予:旧講演会を按分
	印刷製本費	0	14,650	
	諸謝金	95,000	94,662	
	会場費	635,000	613,945	予:旧講演会を按分、旧講演会を組込
	決済手数料	0	155,543	
	支払手数料	0	17,820	
	委員会(事業費)	400,000	0	予:旧委員会を管理費と按分
	予備費	200,000	0	予:旧予備費を管理費と按分
	管理費	2,405,000	1,685,662	
	旅費交通費	500,000	63,425	
	通信運搬費	100,000	208,492	予:旧事務費
	消耗品費	165,000	111,360	予:旧事務所賃貸費
	広報費	250,000	296,310	予:旧HP運営委託費、広報費
	租税公課	70,000	173,930	
	支払い報酬	550,000	638,000	決:商標登録、定款作成費用
	支払手数料	0	14,300	決:振込手数料
	雑費	170,000	179,845	予:旧理事会費、旧会議費、旧交際費 決:供花、祝花、ピンバッジ作成費用
	委員会(管理費)	400,000	0	予:旧委員会を事業費と按分
	予備費	200,000	0	予:旧予備費を事業費と按分
	計	3,835,000	2,611,872	
	事業用積立金	0	500,000	R7年度 事業費積立金
次年度繰越金	685,000	377,010		
合計	4,520,000	3,488,882		

※2024年度は当会設立初回決算のため、2024年度予算案より予算計上科目が変更、按分となっている。

(一社) 日本救急救命士会 令和7年度予算案
(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

(単位：円)

	科目	R6年度決算	R7年度予算	備考
収入の部	事業用積立金	0	500,000	
	繰越金	0	377,010	
	入会金	1,545,000	500,000	5,000円×100名
	入会金(特例)	0	0	R8年度より発生
	会費(正会員)	0	910,000	5,000円×182名(継続正会員)
	会費(特例)	0	50,000	500円×100名(第48回入会特例)
	会費(評議員)	1,260,000	1,240,000	10,000円×124名(名誉会員1名・退会1名)
	会費(賛助会員)	800,000	1,000,000	1口×7団体・3口×1団体(R7 目標2口)
	会費(R6繰越)	-815,000	815,000	R6年度会費 年度繰越
	年度協賛	2,500,000	500,000	1口×5団体(R7 目標5口)
	年度協賛(R6繰越)	-2,500,000	2,500,000	R6年度協賛 年度繰越
	その他協賛金	396,000	500,000	会員集会(9月) 協賛
	意見交換会会費	302,500	330,000	会員集会(9月) 参加費 5,500円×60名
	事業収益	146,100	132,000	オンラインセミナー 有料参加 3,300円×40名
	事業収益(R6繰越)	-146,100	146,100	R6年度事業収益 年度繰越
	利息	382	500	
	合計	3,488,882	9,500,610	
支出の部	事業費	926,210	2,370,000	会員集会・委員会活動等
	旅費交通費	11,500	50,000	事務局交通費
	通信運搬費	18,090	20,000	
	印刷製本費	14,650	20,000	
	諸謝金	94,662	100,000	
	会場費	613,945	850,000	集会・意見交換会開催費
	決済手数料	155,543	200,000	会員登録システム
	支払手数料	17,820	30,000	銀行手数料
	委員会(事業費)	0	900,000	委員会 事業活動費等
	予備費	0	200,000	
	管理費	1,685,662	4,465,000	
	事務委託費	0	1,200,000	R7へるす出版委託費
	旅費交通費	63,425	1,000,000	監査における監事旅費・役員旅費
	通信運搬費	208,492	340,000	郵送費 ZOOM プロ年会費 ZOOM ウェビナー年会費 フォームメーカー年会費
	消耗品費	111,360	300,000	事務局運営
	広報費	296,310	283,000	HP運営委託費 PRタイムス年会費 ポスター、リーフレット等制作料
	租税公課	173,930	200,000	都民税・区民税・その他税金
	支払い報酬	638,000	450,000	会計士委託料・司法書士委託料
	支払手数料	14,300	30,000	銀行手数料
	交際費	(R6雑費合算)	100,000	R7科目復帰
	雑費	179,845	300,000	理事会費・会議費・賛助会員費等
	委員会(管理費)	0	62,000	委員会 年間運営費等
	予備費	0	200,000	
	計	2,611,872	6,835,000	
	事業用積立金	500,000	2,100,000	R8へるす出版160万円、会員集会50万円
	次年度繰越金	377,010	565,610	
	合計	3,488,882	9,500,610	

令和 7 年度 事業計画

自 令和 7 年 4 月 1 日

至 令和 8 年 3 月 31 日



1. 事業の目的

日本救急救命士会は、定款第3条において、「救急救命士が教育と研鑽に根ざした専門性に基づき、救急医療の質の向上を図るとともに、国民の幸福を追求し続けられる環境づくりを推進し、社会のあらゆるニーズに応える救急救護領域の開発と展開を図ることにより、国民の安全と安心に寄与することを目的とする。」と定めている。

2. 事業の一覧

令和7年度において、日本救急救命士会が実施する事業は以下の通りである（定款第4条）。

- (1) 救急医療の質の向上に関する事業
- (2) 救急救命士の教育と研修に関する事業
- (3) 職業倫理の向上に関する事業
- (4) 救急救命士制度への提言に関する研究事業
- (5) 救急救命士相互の職域を支援する事業
- (6) 救急救命士の就職支援に関する事業
- (7) 公共福祉の向上に関する事業
- (8) 他の医療従事者との連携事業
- (9) 学術研究の振興に関する事業
- (10) 救急救命士の国際交流に関する事業
- (11) その他当法人の目的を達成するために必要な事業

3. 総務関係

① 事務局の運営

本法人の事務局では、会員との正確かつ迅速な情報共有を図るとともに、効果的な連携体制を構築する。また、一般社団法人の運営に関わる各種会議の開催や諸手続き、届出・報告をはじめ、法人運営を円滑に行うため、次の事業を行う。

- (1) 事務局組織の機能強化
- (2) 法人・事務局運営に係る業務改善
- (3) 法人運営に必要な各種規則等の整備
- (4) 関係機関等への諸手続き
- (5) 法人の運営及び活動に係る各種情報収集等

② 会議等の開催

本法人の事業運営及び財務等に関する重要事項の審議や、会員、各委員会における多様な意見を把握するとともに、運営に反映するため、次の会議等を開催する。また、各種連携事業等の実施に必要なルール等を制定するなど、円滑な事業を実施できる環境整備に取り組むこととする。さらに、理事会の傘下に設置した委員会においては、委員会で行う具体的な連携事業に関わる企画及び本法人の中期的な事業構想等の検討や、運営面での管理体制を整備し、事業

及びその質保証を担保する。

- | | | | |
|----------------|---------------|--------|------|
| (1) 評議員会（社員総会） | 定時評議員会（年 1 回） | 臨時評議員会 | 随時開催 |
| (2) 理事会 | 通常理事会（年 2 回） | 臨時理事会 | 随時開催 |
| (3) 委員会 | | | |
| (4) その他 会議等 | | | |

4. 重点事業

定款第 4 条で定めた事業を達成するため、以下の事業について重点的に実施する。

(1) 他団体との連携強化

- 救急医療の質の向上と体制の充実に向けて、関係団体との連携を強化し、情報共有や協働による課題解決を通じて、救急救護体制の質的向上ならびに充実を目指します。

(2) 地域毎における活動の活性化

- 地域ごとの特性に応じた活動を推進し、救急医療に関する各地域での主体的な取り組みを支援し活性化を図ることで、救急救護体制の質的向上ならびに充実を目指します。

5. 委員会活動

定款第 4 条で定めた事業を達成するため、以下の 8 つの委員会活動を実施する。

<総務委員会>

概 要	事務局と連携し、本会における総務全般、財務経理を担当し、各委員会の事業を支援する。さらに会員情報の管理、福利厚生、表彰及び他団体との情報交換等の事務業務を担当する。また、救急救命士の職域における課題やニーズを分析し、他の委員会と連携しながら将来に向けての計画を検討し、事業立案を行う。
委 員	○植田 広樹、○◎中川 貴仁、中川 貴仁、水本 花子、中島 秀明、大滝 達也

◎委員長 ○担当理事

本年度 事 業 計 画	1. 定款改定案の検討、各種規程等の整備 2. 各種認定制度における認定作業の実施 3. 事務機能の更なる改善 4. 各委員会の事業活動における具体的支援 5. 会員集会の企画運営
-------------------	--

<学術・研究倫理委員会>

概 要	日本救急救命士会は、その事業の一つに、救急救護領域の学術に関する事業を掲げている。学術に対する綱領、救急救命士が行う研究に関する倫理指針、研究活動上の行動規範を定め、救急救命士が教育・学術・研究の研鑽に根ざした専門性に基づき、救急救護領域の質の向上を図ることを目的に、専門的知識や技術の進歩と開発に努め、救急救護領域の発展に寄与していく。
委 員	○一ノ瀬 佳彦、○萱沼 実、◎中川 洸志、勾坂 量、皆藤 竜弥、黒崎 久訓、田中 翔大 都 城治、守岡 大吾、松山 千恵美、北野 信之介

◎委員長 ○担当理事

本年度 事業 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「倫理綱領、研究倫理指針、研究活動上の行動規範」を会員にパブリックコメントを募集予定 2. 本学会の「倫理綱領、研究倫理指針、研究活動上の行動規範」を Web ページに公開する。 3. 救急救命士学術ウェビナーの開催を計画し実施する。 4. 救命士向け論文解説ページの運用を開始する。 5. 倫理委員会の設立に向けた議論を開始する。 6. 本救急救命学会学術集会におけるコラボセッションを実施する。
-----------------	---

<教育・研修・多職種連携委員会>

概 要	救急救命士の専門性向上を目的とし、教育プログラムの作成と実施、臨床実習の質向上に向けた指導者のためのガイドラインの作成、他の委員会と連携したより効果的な教育企画の実施等を行う。また、多職種連携の推進として、救急救命士が活動する様々な現場における役割の明確化や各現場に適した多職種連携モデルの構築等に取り組んでいく。
委 員	○三上 剛人、◎◎大石 奨、長橋 和希、齋藤 汐海、三本 健志、大野 健二 藤島 璃々子、向井 亮裕

◎委員長 ○担当理事

本年度 事業 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育研修に関する知識共有に向け、オンラインセミナーを毎月実施する。 2. 就業前実習者のフォローアップに向け、(仮称)臨床実習ガイドブックを出版準備する。 3. 各機関の教育研修事例の共有に向け、人材育成の事例検討会を企画開催する。 4. 多職種連携に向け、各機関の取り組み内容を収集展開する。
-----------------	---

<広報・キャリア支援委員会>

概 要	SNS やマスメディアを活用して、本会の使命・役割や活動実績の広報をすることで認知度の向上を図るとともに、救急救命士に対する社会的理解を浸透させ専門性の向上を図る。また、救急救命士の就職・転職や職場復帰に関する課題と解決策について検討し、会員の希望に沿ったキャリア形成の推進を図るための機会や充実したサポート体制の構築を実現する。
委 員	○津波古 憲、○◎長谷川 汐里、鳴海 圭佑、木下 拓也、島 伶弥、宮部 泰直 加藤 明仁、柳 聖美

◎委員長 ○担当理事

本 年 度 事 業 計 画	【2024 年度からの継続事業】 1. SNS (Instagram、Facebook) の運営 2. 会員 NEWS メール配信 3. PR TIMES を活用したプレスリリースの配信 (無料) 4. 広報用チラシ、パンフレット、画像、動画等の作成 5. 会員向けオンラインセミナーのオンデマンド配信用動画の作成 6. 救急救命士学生向けの国家試験応援オンラインセミナーの開催
	【2025 年度新規事業案】 1. 会員数を増やすための、ウェルカムセミナーの開催 (目標開催頻度：8 月以降毎月 1 回) 2. 会員への情報発信のための会員向けニュースレターの発行 (目標発行頻度：年 3 回) 3. 救急救命士のキャリアに関する意識と課題調査の実施 (Web アンケート) 4. 救急救命士のキャリアに関する意見交換会の開催 (オンライン開催)

<職業・専門職倫理委員会>

概 要	救急救命士の専門性を向上させ社会に対する信頼性を確立するため、救急救命士が活躍するあらゆる現場において遵守すべき専門職の倫理基準を策定し、救急救命士に与えられた社会的責任を果たすための行動指針を明示することを目的とする。併せて、救急救命士の専門職倫理に基づく適正な現場活動を確保するため、専門職としての実践ガイドラインを策定する。
委 員	○◎澤田 仁、眞野 一樹、長谷川 瑛一、郷田 爽真、久保田 竜也

◎委員長 ○担当理事

本 年 度 事 業 計 画	救急救命士が活躍するあらゆる現場に即した実践ガイドライン (案) の策定に向け、他の委員会等と連携しながら以下の事業を行う。 1. 救急救命士が活躍する職域に関する調査研究 救急救命士が医療職として活躍する職域を研究し、実践ガイドライン (案) の骨子を示す。 2. 各職域における実践ガイドライン (案) 検討部会等の組織化 他の委員会等と連携し、各職域における実践ガイドライン (案) を検討するための部会等を
---------------------------------	---

	<p>組織化する。</p> <p>3. 実践ガイドライン（案）の策定</p> <p>各検討部会等と連携し、各職域における実践ガイドライン（案）を策定する。</p>
--	---

<救急救命処置委員会>

概要	<p>救急救命処置の技術の向上および質の高い救急活動が安全、確実かつ円滑に行われるよう、救急救命処置に関する研究やデータ収集を通じて、救急救護領域の発展に寄与することを目的として活動を行う。また、救急救命士を取り巻く現状の課題を抽出するとともに、新たな救急救命処置、および対象等の拡大・変更の議論に対して、関係省庁・機関と協力関係を築き、提言を行い、国民の生命を守るために救急救命士の職能向上に努めるための活動を行う。</p>
委員	<p>○沼田 浩人、○吉井 友和、◎林 智貴、安達 颯太、野口 佐弥香、高田 康平 高橋 和也、鈴木 健介、川崎 知美</p>

◎委員長 ○担当理事

本年度事業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急救命処置拡大に向けた状況把握のための検討 2. 各領域の現状や要望把握の検討（消防・医療機関・公的機関・民間等） 3. 各領域の相互理解のための座談会開催計画立案 4. 3 における座談会アンケートで得られる救急救命士の処置拡大に関する意識と課題についての質的量的調査の検討 5. 監督省庁等に提案する要望事項の検討
---------	---

<災害・公共福祉委員会>

概要	<p>地震、台風等の災害により生じた傷病者を救護する救急救命士の役割は重要であり、その期待は大きい。本委員会は、近年の激甚化する大規模自然災害等に対して、様々なフィールドで活動する救急救命士の役割、業務内容、災害支援等について検討し、関係する各種団体と協力し、活動を行う。また、公共福祉を高めるため、各種行事における救急救護の普及啓発等、公益目的事業の推進についても併せて検討を行う。</p>
委員	<p>○宮崎 伊佐夫、◎小田 浩文、本田 茂人、丹羽 一晃、尾中 秀行、廣田 恵典、高橋 貴美 小松 義孝、堀越 涼平、小森 一稀、竹内 一之、小森 健史、加藤 渚</p>

◎委員長 ○担当理事

本年度事業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害に関する本委員会の役割、方向性等を検討する 2. 公共福祉に関する本委員会の役割、方向性等を検討する 3. 委員会の検討課題を明確にするために2つの小委員会を設置する 4. 救急救命士に関する災害・公共福祉分野の調査研究を実施する 5. 関係団体や各委員会と連携した検討、活動を展開する
---------	--

<国際委員会>

概 要	本会の関連する委員会と協力し、世界中の救急医療に関する知識や技術の共有、国際的なガイドライン策定や研究への参画、そして海外の救急救命士職域団体との連携を図る。また、国際会議への参画や海外等研修プログラムを通じて、日本の救急救命士の国際的な地位向上とネットワーク構築を目指し、本邦の救急救命士の資質向上に寄与する。
委 員	◎◎菊地 誠二、原 貴大、三芳 智伸、木村 龍、森下 優似、若松 淳

◎委員長 ○担当理事

本年度 事業 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. カンボジアにおける救急医療体制整備事業への参画 2. SNS を通じた会員の国際活動についての広報活動 3. 各国の救急救命士関連団体と WEB ミーティングの定期開催各国の救急救命士の現状や抱えている課題等の共有を図る。 4. 国際医療協力や各種学会・セミナー等への参画→米国で開催される EMS World EXPO への役員派遣
-----------------	---

以上